

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	清田リハビリセンタ ー		
○保護者評価実施期間	令和8年 2月 1日		令和8年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	47名	(回答者数) 32名
○従業者評価実施期間	令和8年 2月 1日		令和8年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童の状況に応じた個別支援が行われていること。児童発達支援管理責任者を中心に、子どもの発達段階や特性を踏まえた個別支援計画を作成し、それに基づいた支援が行われている。また、日々の活動の中でも子どもの様子に合わせて柔軟に支援内容を調整している点が強みである。	子どもが落ち着いて過ごせるよう、環境設定やスペースの使い方を工夫している。また、安全面にも配慮しながら活動が行えるよう環境整備に取り組んでいる。	職員研修の充実による専門性の向上を図る。障害特性や支援方法について学ぶ研修を充実させることで、職員の専門性を高め、より質の高い支援の提供につなげていく。
2	児童の状況に応じた個別支援が行われていること学校や相談支援事業所、医療機関などとの連携が行われており、子どもの生活全体を見据えた支援体制が整えられている。また、保護者との情報共有も行われており、家庭と連携した支援が実施されている。	子どもの発達段階や興味に合わせた活動を取り入れ、楽しみながら社会性や生活力を育てる支援を行っている。個々の特性に応じて活動内容を工夫している。	PDCAサイクルを意識しながら、支援内容の振り返りや評価を定期的に行い、課題を整理しながら支援の改善を図っていく。
3	支援の振り返りや情報共有が職員間で行われていること日々の支援の記録やミーティングを通して、支援内容の振り返りや課題の共有が行われている。職員同士で意見交換を行うことで、より良い支援につなげる体制が整っている。	職員間での情報共有と支援の質の向上への取り組みにおいては、ミーティングや日々の記録を通して支援の振り返りを行い、より良い支援につなげるよう努めている。また、必要に応じて研修への参加や学びを取り入れ、支援の質の向上に取り組んでいる。	保護者や関係機関との連携のさらなる強化をし学校や相談支援事業所、医療機関との情報共有をより充実させるとともに、保護者とのコミュニケーションを大切にしながら、子どもの成長を支える支援体制を強化していく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員研修や自己研鑽の機会が十分とは言えないこと。外部研修や事業所内研修の機会が限られており、専門性向上の機会をさらに充実させる必要がある。	子ども一人ひとりの特性に応じた支援の充実を図る。個別支援計画に基づき、子どもの発達やニーズに合わせた支援をより丁寧に行っていくことを重視している。	研修機会の確保と学びの共有をし外部研修への参加や事業所内研修を計画的に実施し、学んだ内容を職員間で共有する仕組みを整える
2	第三者評価や客観的な評価体制が十分ではないこと外部による評価や意見を取り入れる仕組みが十分に整っておらず、客観的な視点での改善が課題となっている。	職員間の情報共有とチーム支援の強化を図る。ミーティングや日々の記録を通して情報共有を行い、職員が連携して支援にあたる体制を大切にしている。	活動プログラムの見直しと充実をはかり、子どもの興味や発達段階に応じた活動を検討し、遊びや体験活動の幅を広げていく。
3	活動プログラムの幅や内容の充実に課題があること子どもの特性や発達段階に応じた活動は行っているが、活動内容のさらなる多様化や工夫が求められる。	保護者や関係機関との連携の継続を図り、学校や相談支援事業所、保護者との連携を継続し、子どもの成長を支える支援体制を維持していくことを大切にしている。	評価・振り返りの仕組みの強化をし定期的に支援内容を振り返り、職員全体で課題を共有しながら支援の質の向上につなげていく。